基地内のPFOS・PFOA汚染は事実だ！

“下総基地内の土壌・地下水調査をすぐに実施すべき”

2026年6月1日　藤代政夫

これまでの経過

下総基地周辺のPFAS問題は、2020年の時にPFOS含有泡消火剤5140Lが下総基地に在庫あり。市民も少しずつ問題意識を・・・。最初は「金山落」でのPFAS調査結果（名内橋で334ng/ℓ）がNHKクローズアップ現代でもとりあげられました。ただ発生源が分からない「原因が分からない」と。

そのような中市民と議員が連携して考え始めました。2023年夏には「2007年の千葉県環境研究センターによる金山落のＰＦＡＳ調査」地点の現地確認。そしてなぜか下総基地のほうからくる水路についてこれまで全く調べてないことに疑問を。

12月に道路280号と交差するあたりの金山落に流入する小川（下総基地のほうから流れてきている）の水を調べたら（柴田市議）410ng/ℓを検出。

白井市・鎌ヶ谷市・柏市の市民と議員は市長に対しこの調査結果を示し、原因をきちんと調べるべきと要望書を出しました。

このような動きを受けた形で千葉県と3市が中心になって周辺の河川の水質調査を開始しました。

2024年3月

下総基地から流れる水路で高い値が検出されました。

北東部で：1800ng/ℓ（基地のそば）～560ng/ℓ（410が出たあたり）

南東部で：1000ng/ℓ（焼却場しらさぎ脇）～1000ng/ℓ（金山落へ）

これに対応する形で県・3市は周辺井戸水（地下水）の調査も始めました。

2024年以降1年間で河川・水路＆井戸水調査が数度にわたって次々とおこなわれ実態が明らかになってきました。

下総基地北東部藤ヶ谷地区では

水路2100～560ng/ℓ、井戸水2000ng/ℓ～

下総基地南東部軽井沢地区では

水路21000～1000ng/ℓ、井戸水42000ng/ℓ～

白井市金山落周辺200m

井戸水71本調査しすべてが19ng/ℓ以下（50ng/ℓ超過井戸は0）

＊柏市と鎌ヶ谷市で井戸水を合計576本調査し

50ng/ℓ超過井戸は173本、内130本で飲用に使用していました。

発生源は？

このように高い値のPFAS汚染が明らかになったのに発生源がなかなかわか

らず・・・でも市民の間ではＰＦＡＳ濃度の傾向から又ＰＦＡＳの内訳でＰＦＯＳが 90%以上であったことからもどう見ても下総基地の問題だなあと思いだしていました。

下総基地ではＰＦＯＳ含有の又ＰＦＯＡ含有の泡消火剤での真っ黒な黒煙を上げての消火訓練が行われており（いまだに下総基地はその詳細な実態を明らかにしない。ＰＦＯＳは禁止 2010 年以前、ＰＦＯＡは禁止 2021 年以前のことはわからないといって)、

又、平成５年（1993 年）には”燃料タンク火災“で多くの消火剤を使いそれが北東部の窪地（排水口⑤のところ）に流れ込んだようです。

更に下総基地への要請行動、現地視察で基地内排水口①、排水口⑤がそれぞれ南東部の基地外水路に、北東部の基地外水路につながっていることも明らかになりました。（基地も千葉県も認めました）

このような調査状況の中千葉県と３市（柏・鎌ヶ谷・白井)、そして市民から基地内の水質調査をするようにとの要望に対し下総基地はやっとのことですが基地内の表流水を調査することになりました。（2025 年 3/5 採水）

その調査結果 2025 年 3/31 発表

排水口①でＰＦＯＳ4100＋ＰＦＯＡ390＝4500ｎｇ/ℓ

排水口⑤でＰＦＯＳ1700＋ＰＦＯＡ24＝1700ｎｇ/ℓ

排水口②でＰＦＯＳ97＋ＰＦＯＡ5．7＝100ｎｇ/ℓ

＊当日柏市が基地外水路の水質調査をしました。

排水口①の敷地外水路で 3200ｎｇ/ℓ

排水口口⑤の敷地外水路で 1600ｎｇ/ℓ

千葉県と３市は記者発表し、

「金山落の PFOS 及び PFOA の超過原因の一つは基地からの排水と考えられます」と、下総基地との因果関係を示しました。

すぐに県と３市は下総基地に対して依頼書を出しました（2025 年 4/11）

① 排水口からの流出防止対策実施、排水口におけるPFOS 等濃度は 50ｎｇ/ℓ以下に

② 排水口におけるＰＦＯＳ等の超過原因を調査し対策をとること

③ 排水口及び基地内における湧水のＰＦＯＳ等濃度を継続的に測定し公表すること。

を依頼しました。

血液検査について

鎌ヶ谷市は 2024 年 8/15 の広報で超過井戸の水を飲用した住民（希望者）への血液検査を公費負担する（上限３００００円×２回）と発表。多摩地区の医療機関で。12 月には流山の東葛病院でも検査可能に。

69 名が希望、そのうち 10 名が検査し 2025 年５月に検査結果が出ました。

１０人中９人が健康リスクが上がってしまう 20ｎｇ/ｍｌを超過しました。

平均：ＰＦＯＳ：24．3、ＰＦＯＡ：5．9、ＰＦＨＸＳ：63．3ｎｇ/ｍｌ
最大：ＰＦＯＳ：66．3、ＰＦＯＡ：12．5、ＰＦＨＸＳ：172．3ｎｇ/ｍｌ

＊2025 年 7/3 に血液検査 10 人が使った井戸水４か所を PFHXS を含めて調査
井戸水：PFOS：250・PFOA：34・PFHXS：490ｎｇ/ℓ（2025・7/3）
ＰＦＯＳ：260・ＰＦＯＡ：35ｎｇ/ℓ（2024 年 11 月）
井戸水：ＰＦＯＳ：560・ＰＦＯＡ：13・ＰＦＨＸＳ：210ｎｇ/ℓ（7/4）
ＰＦＯＳ：460・ＰＦＯＡ：13ｎｇ/ℓ（2024 年８月）
＊国分寺市と同じような結果が出ました。ＰＦＨＸＳの高い血液検査と井戸水のＰＦＨＸＳとの関係が明らかになりました。
ますます基地内の地下水との関係を調べる必要があります。
又、血液検査とその住民への健康フオローの体制を”公“が作っていく必要性。
更に疫学調査の必要性もあります。

下総基地のＰＦＡＳ除去事業
2025 年 4/11 の県と３市からの依頼に対して 6/2 に下総基地から回答がありました。「雨水排水ろ過調査検討業務」入札したと。

＊とはいえ 2025 年 6/30 の段階で防衛省交渉をした時も防衛省は「4500ｎｇ/ℓと自衛隊活動との因果関係は語れない」と表流水についても因果関係ありとは言わないのです。（ならなんで下総基地の表流水からこんなに高い値のＰＦＡＳが出るのだろうか？）

下総基地の排水口①②⑤でイオン交換樹脂と活性炭でＰＦＡＳ除去作業です。
2025 年 9/22～
≪2026 年 1/30 除去効果第一回目発表≫
10/8・10/15・10/22・10/29・11/26・12/15・1/7 実施
柏市・千葉県が基地外の水路を調査した 11/26 を合わせてみると
排水口①：処理前 26000ｎｇ/ℓ処理後４未満―基地外水路 9400～1500
排水口⑤：処理前 2000ｎｇ/ℓ処理後４未満―基地外水路 240～40
排水口②：処理前 17ｎｇ/ℓ処理後４。

≪2026 年 4/28 除去効果第二回目発表≫
2/27・3/27 実施
柏市・県が基地外水路を調査した 2/27 に合わせてみると
排水口①:処理前 4700ｎｇ/ℓ処理後９排水入り口８―基地外 2700～1900
排水口⑤：処理前 3100ｎｇ/ℓ処理後５敷地境界 84―基地外 75～60

今回のろ過除去装置の事業は当初4600万円の契約で、2026年6月末までで8200万円の費用が掛かっているとのこと。6月末以降も同じくらいで実行していく予定とのこと（5/28防衛省交渉での回答）です。

2回目はこれまで「処理前」「処理後」だけだったものに「排水管入り口（排水口①）」「敷地境界付近（排水口⑤）」の調査を増やして実施。

調査結果からわかること

≪北東部を見てみると≫

1回目処理前2000が処理後4未満に。それが敷地外水路B（2100の値だったところ）で240ng/ℓとなぜか上昇していました。

2回目では処理前3100処理後5。排水口⑤から敷地外へ出るまでの間（数十m）にある水路の敷地境界のところで84、敷地外水路Bで75ng/ℓとなりました。

＊処理後5まで落ちたものが敷地数十mを通過する間に84ng/ℓまでに上昇してしまったのは、どう見ても基地の敷地の土壌にＰＦＡＳ汚染があったのではないだろうかと思われます。敷地境界までの土壌の調査が必要です。

又、排水口⑤は2025年3月では1700ng/ℓだったものが今回3100そして1回目の時は4500まで値が上がっています。排水口⑤周辺の窪地の土壌の調査が必要だと思われます。（当然同時に基地内地下水の調査が必要です。）

≪南東部排水口①は≫

1回目（11/26）処理前26000処理後4未満それが敷地外水路Ａで9400～1500。

2回目（2/27）処理前4700処理後9、排水管入口で8。それが敷地外Ａ水路で2700～1900。

＊この南東部でも2025年3月4500ng/ℓだったものが2回目の今回4700、1回目は26000～44000まで高い値になっています。やはり消火訓練場周辺の土壌と排水口①周辺の土壌の調査、そして敷地外の水路周辺の土壌の調査が必要だと思われました。（同時にやはり基地内地下水の調査も必要です）。

1回・2回のイオン交換樹脂装置での調査結果から考えられるこれからの課題

下総基地は2回の除去結果によってイオン交換樹脂によって表流水のPFOS・PFOAの濃度を低減させることができることが分かりました。

同時に、調査結果のPFOS・PFOA濃度の結果からも基地内の土壌の調査、地下水の調査が何としても必要だということが分かります。

防衛省はいまだに（2026年5/28防衛省交渉）「下総基地の因果関係について確固たることは言えない」と言っています。因果関係を語れないと云うならすぐに調査して因果関係を調べるべきなのです。

PFAS 問題 2026 年 6/1 現在の課題

Ⅰ、汚染状況の把握（実態把握）

河川：金山落～水路Ａ・水路Ｂの PFAS 汚染状況

地下水：井戸水調査（飲用してるか否か）

諸元調査

汚染井戸水飲用者への対応

水の確保：上水道水無料提供・ウオーターサーバー支援・浄水器支援・上水道敷設支援

健康フオロー：血液検査・医療機関による健康フオロー（公費支援）

Ⅱ、発生源究明

下総基地内の土壌調査・地下水調査。基地外の井戸との関係

下総基地と敷地外の汚染状況との関係を明らかに

Ⅲ、汚染除去

下総基地内の表流水の PFAS 除去：イオン交換樹脂装置

周辺井戸の汚染除去は？

Ⅳ、飲用水の確保

ウオーターサーバー、浄水器、上水道敷設（費用負担はだれが？）

Ⅴ、超過水飲用者の健康は？

血液検査・健康フオロー（行政～医療機関～市民）

Ⅵ、自治体・市民の費用負担に対する財政支援は？

国・地方自治体・発生源責任

Ⅶ、リスクコミュニケーション

説明会・情報公開

発生源者―被害者の因果関係を明らかに

Ⅷ、予防原則・発生源（原因者）責任

Ⅸ、市民活動・議会活動

議会意見書の実現を

請願採択項目実現を

市民活動の充実

PFAS 問題防衛省交渉報告（2026 年5/28）

下総基地ではイオン交換樹脂装置を使った表流水の PFOS・PFOA 除去の事業を展開しており、その結果報告（２回目）を受けて防衛省交渉をおこないました。（福島瑞穂事務所の尽力で）防衛省環境政策課などの職員 ４ 名と市民との 16 項目にわたる質問への回答と意見交換という形での交渉です。

防衛省の回答

① 除去の調査結果の公表は、県・柏市の敷地外水路の水質調査時と合わせたものを公表しています。

② 除去のためのイオン交換樹脂の交換頻度は一般に 3～4 か月程度です。使い終わったイオン交換樹脂は産廃業者がマニュアルに従って焼却処理しています。

③ 事業費は契約時 4600 万円でしたが今年の６月末までの合計額は 8200 万円になります。６月末以降も同程度必要になります。

④ 排水口①で処理前 44000、25000、排水口⑤で 4500、1000、2500ｎｇ/ℓと言う高い値が出ている原因は？と問うと、「確固たることを申し上げるのは困難です」と。

⑤ 排水口⑤で処理後の水が敷地を数十メートル通ると値が高くなるのは？又処理前の表流水も以前の調査時の値より高いのはなぜですか？と聞くと、「下総基地との因果関係を確固として申し上げるのは困難」と。

⑥ 排水口①では、処理した水が排水口から出て敷地外の水路で 9400ｎｇ/ℓと言う高い値を出ているがどう考えるか？と問うと「基地外の調査について答える立場ではない」と言うだけ。

⑦ 消火訓練場の周辺、排水口①周辺、又排水口⑤周辺の“土壌調査”をするようにと要請すると「土壌調査については今、ＰＦＡＳの水・土壌への拡散について知見を集めている」「環境省等と連携して科学的知見を集めている」と言って調べようとはしない。

⑧ ＰＦＨＸＳも調べるべきと問えば、「ＰＦＯＳ、ＰＦＯＡは基準値があるが、ＰＦＨＸＳには基準値がな・・・今科学的知見を集めている」と言ってやろうとしない（ＰＦＨＸＳは 2024 年禁止・制限されているのに）

⑨ 「現在下総基地にはＰＦＯＡ含有の泡消火剤が 380ℓ在庫あります」「今は下総基地ではＰＦＯＳ、ＰＦＯＡ含有の泡消火剤を使ってはいません」「しかし“ノンＰＦＡＳではない消火剤”があります」

⑩ 市や県への財政支援を要請したら「ＰＦＯＡ、ＰＦＯＳはいろな場所で、いろいろな形で使われてきており、自衛隊との因果関係を確固と語るのは困難です」と言って財政支援をしようとしない。

以上のように回答は「下総基地との因果関係は確固たることを言えない」との一点張りでＰＦＡＳと基地との因果関係を認めようとしません。（表流水に関し千葉県も柏・鎌ヶ谷・白井３市もはっきりと金山落の PFOS・PFOA 汚染と下

総基地の表流水との関係ありと因果関係を明らかにしているのに）
ならば土壌・地下水調査をしてくれるように要請すると「知見を集めている・・・科学的知見が・・」と言うだけで、土壌調査をしようとはしないのです。
今回の交渉ではっきりしたことがあります。
「因果関係は確固と語れない」と言っても
「下総基地内で４４０００ng/ℓの PFOS・PFOA 汚染された表流水が流れていること」
「イオン交換樹脂装置で除去され ４ 未満になった水が下総基地の土壌に触れると値が上がってしまうということ」
これは事実として防衛省も認めているのです。
下総基地内の PFOS・PFOA 汚染は確実な（確固たる）事実なのです！
さ～あどうする？

「民主主義と自治そして平和主義」藤代政夫 047-445-9144

白井工業団地内 PFAS 問題

―環境省の PFAS 対策推進モデル事業に―

白井工業団地の PFAS の調査方針について白井市議会全員協議会が 2026 年 6/1 に開催され、市当局から白井工業団地内の PFOS・PFOA の調査方法についての説明がありました。

2025 年 1 月に白井市が団地内観測井戸 36 本（9 地点×4 帯水層）を調べ、B2 で 68ng/ℓ、B4 で 115ng/ℓ・52ng/ℓ、B6 で 24000ng/ℓ（ＰＦＯＡ：24000＋ＰＦＯＳ：160）・160ng/ℓが検出されました。

その後 8 回にわたって周辺井戸水を調査した結果 97 本中 22 本で基準値 50ng/ℓを超過（B6 周辺で 21 本の井戸が超過）。

今年度 2026 年度の調査については、環境省の PFAS 対策推進費（2025 年度補正 9 億 4400 万円）を使った「水環境・水道の一体的リスク管理を促す先進的地域モデルの構築」における対象地域に白井市が選定されたとのこと。

≪環境省が実施することは≫

（国の予算で環境省が実施。予算額はわからない）

PFOS 等地域対応取り組みモデル構築のため

○ヒアリング・現地調査

○取り組み計画案

＊詳細な水質調査（イオン組織、その他）

＊ボーリング調査検討、観測井戸追加設置検討

＊地下水流動シュミュレーションの精緻化のための資料収集

＊リスク管理策、リスクコミュニケーションの検討

○事例集の作成

＊B6（汚染濃度が高く、範囲が広い）を中心に実施していくようです（市長）。

≪白井市が実施すること≫

「千葉県の２分の１補助」を使い白井市が２分の１負担

白井工業団地：

○水質のモニタリング

観測井戸：50ng/ℓ超過したB2・B4・B6 の観測井戸は年２回（夏冬）

未超過Ｂ１・B3・B5・B7・B8・B9 は年１回

民間井戸：50ng/ℓ超過した 22 本の井戸は年１回

○民間井戸の諸元の確認

金山落：

今井地区井戸１本（1ng/ℓ）、西白井井戸１本（下限）それぞれ調査継続

議員からの質問への回答

Q、今回白井市が環境省から選ばれた理由は？

答：廃棄物等の関係で・・・、工業団地内に観測井戸（かつてのトリクロロエチレン問題で設置された）があるので地下水の基礎データーがあるといったことからではないか・・・

Q、今回の事業では検査分析はだれがやるのか？又どこまでやってくれるのか？

答：国の事業なので国が委託して分析解明するのでは・・・

又、国が調査して汚染のもとまで解明してくれるのではと期待している。

事例集を作るのだから、調査―解析―原因―発生源―除去とかこれらのことをやってくれるのでは

Q、白井市の水道組合の井戸は？

答：B4 の地点近くにあるが井戸は深く PFAS は検出されていません。

＊白井市は環境省の事業対象になったので工業団地内の PFAS 汚染の実態を解明し、除去方法をはじめ解決策も出してもらいたいものです。

PFOA24000ｎｇ/ℓの発生源は？ＰＦＯＳの多い井戸もありますこの発生源？も明らかにしてほしいです。

＊、今回の環境省のＰＦＡＳ対策事業に対し千葉県は鎌ヶ谷市・柏市も白井市と一緒に提示したとのこと。今回は白井市だけが対象になったのです。

鎌ヶ谷・柏市のほうは下総基地との関係を明らかにする必要があります。環境省・防衛省は国の責任で調査・解明・解決を図ってほしいものです。

＊「民主主義と自治そして平和主義」藤代政夫　047-445-9144